

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

平成25年3月1日(金)発行

会 報

事 務 局

北海道札幌東高等学校

〒003-0809

札幌市白石区菊水9条3丁目

TEL 011-811-9040

FAX 011-811-3952

~~~~~ 巻 頭 言 ~~~~~

「定通教育の現状と諸課題について」

北海道高等学校長協会定通部会長 村田 政 孝
北海道有朋高等学校長

教頭・副校長会定通部会の各教頭・副校長の皆さまにおかれましては、日ごろより、北海道における定時制通信制教育の推進・充実にご尽力をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

改めて述べるまでもなく、多様化が進む高等学校教育であります。中でも、私どもが担っております定通教育につきましては、当初の設置目的にある勤労青少年への高等学校教育の保障のみならず、高校中退者や不登校経験者への学び直しの機会提供、集団に馴染めない生徒や外国籍生徒、また、特別な支援を必要とする生徒への個別的な学習指導、さらには、学びを継続したいという意欲に満ちた地域の社会人などへの生涯学習機関としての役割など、さまざまな学習ニーズに対応する学びの場としての役割を担うことが期待されています。

文部科学省の委託事業として全国高等学校定時制通信制教育振興会が、全国804校へのアンケート調査の分析を中心にして取り組まれた「高等学校定時制課程・通信制課程の在り方に関する調査研究」の報告書（昨年3月発刊）によりますと、生徒の就業状況について、定職に就いている者が定時制1.5%、通信制5.3%、全体で約3%であり、パート・アルバイトを除く、いわゆる無職者が60%を超えていることから、「勤労青少年のための定時制通信制課程という使命についてはどのように考えていくべきかが重要な課題である。」と指摘し、その上で、「今後はより多様な生徒の再挑戦の教育機関として位置づけられることが望まれる。」とその報告書の結びに提言しています。

今年度、本道の定通制課程としては嬉しいことがありました。昨年10月、国立オリンピック記念青少年

総合センターを会場に行われた「第60回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」において、本道代表の生徒さんが文部科学大臣賞を受賞したことです。その生徒さんは、同じ学校の全日制を中退し、再び1年生として定時制に入学した生徒さんでした。入学当初、周囲が敵だらけで孤立しがちだった自分が多くの仲間との映画づくりを通し、「心豊かで楽しい人生を送るためにも、たくさんの人とかかわって、無駄だと思うこともやっていく。そうやって、日々、変わる。とっておきの目標です。」と、これからも自らが変わり続けていくと力強く述べ、聴く者全てに大きな感銘を与えてくれました。

まさに再挑戦を体現している素晴らしい姿だと思います。「成長とは変化すること。」と言われますが、私どもが、いかにして成長を促す教育活動を設計し、いかにして自らを変えたいと望んでいる生徒さんに主体的に取り組ませていくか、このことこそがこれからの定通教育の大きな課題になります。

今後とも、教頭・副校長会定通部会の皆さまに、ますますのご活躍を期待するところです。

「定通教育の現状と今後の展望」

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会事務局長
北海道札幌東高等学校 教頭 馬場 登

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の会員の皆様には、日頃より定通部会の諸事業に対し、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。また、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会定通部会ならびに関係諸機関よりご指導・ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。誠に僭越ながら、本定通部会の事務局長としてお礼のご挨拶を申し上げます。

さて、現在私たちが携わっている「定時制・通信制教育」は、昭和23年の制度発足以来、働く青少年達に対して学習の機会を提供するといった大きな「役割」を果たしてきました。しかし、社会情勢の変化や全日制高校の進学率上昇に伴い、「定時制・通信制教育」は近年大きな転換期を迎えています。

今日においても「定時制・通信制教育」の重要性は、いささかも揺らぐものではないと思われませんが、従来の「働く青少年の学習の場」としての役割を終え、いわゆる、中学校での不登校や義務教育レベルでの学び直しという、新たな教育ビジョンを設定しなければならなりません。

更には、家庭環境、経済的理由などにより、やむを得ず定時制を選択した生徒も多数在籍している一方、全日制の高校に入学後、様々な事情により進路変更を余儀なくされ、定時制・通信制に転・編入学してくる生徒も少なくありません。このような状況から、多様な生徒の受け入れの場や生涯学習の場としての役割も年々増大してきています。また、中学校を終えて、定時制・通信制を自ら選んで入学してくる生徒がいることも見逃せません。これは、学習方法の自由度が大きいことや、一人ひとりにきめ細かい対応をしてくれるといったことを期待して、定時制・通信制に入学してくる生徒も少なからずいるということを示しています。私たちは、こういった複雑化・多様化する教育ニーズにどのように応えるのかといった課題に真正面から取り組んで行かなければ

ならなりません。

新学習指導要領において、「思考力・判断力・表現力の育成」「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「道徳教育の充実」「体験学習の充実」「キャリア教育の充実」等が求められ、また「生きる力」を育むといった基本理念については変わることなく継承されています。各学校においては、その特色を生かした特色ある教育、特色ある学校づくりが強く求められています。まさに、このような多様な時代だからこそ、その時代の要求に応えることのできる「定時制・通信制教育」に新たな可能性を見出す絶好のチャンスが到来しているのです。各学校で、この先どのような教育ビジョンを持ち、それをどのように展開させていくのか、まさにそこに学校力・教師力を結集させなければなりません。

このような変革の時期に、「定時制・通信制教育」に係わることができたことは、教師としての幸せであり、「定時制・通信制教育」に係わる、教頭・副校長が一同に会する場があるということは、まさに心強い限りであります。今後ともこの部会が、社会の要請に応えることのできる集まりであり、これからの「定時制・通信制教育」のあり方について、何らかの指針なり方向性を示すことができれば、何よりの成果になると考えられます。

今後とも、この北海道高等学校教頭・副校長会定通部会が実り多いものとなり、その成果が各学校で開花し、大きな実を結ぶことができることを念願しています。

最後になりますが、北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の会員の皆様のご健勝と更なるご活躍を記念し、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

全国単位制高等学校長等連絡研究協議会参加報告

北海道有朋高等学校 校長 村田 政孝

全国単位制高等学校長等連絡協議会が、平成24年10月11日（木）から2日間の日程で福井県福井市の「ユアーズホテルフクイ」を会場に開催されました。

本研究協議会は、単位制高等学校の当面する諸課題について研究協議を行い、今後の学校運営と教育活動の充実発展に資することなどを目的に開催されており、今回が23回目となります。

会場は、北海道からの8校10名を含めて全国各地から約160名の校長などの参加者で熱気にあふれ、誠に有意義な研究協議となりました。

以下、私が参加した研究協議について報告します。

1 全国定通校長会単位制高校委員会報告（全体会）

開会式直後の全体会において、単位制委員会委員長の都立砂川高等学校の野中繁校長から、「東京都の単位制高校の設置から検証へ～都立高校改革推進計画の成果検証を中心に～」と題した発表がありました。

発表では、他道府県の改革推進への一助となる願いをこめ、東京都における単位制高校の設置から現在までの成果を分析・検証し、新たな改革推進計画の中で、多様なタイプの高校の改善で示されている方向性についての報告がありました。

2 研究協議Ⅰ（全体会）

昨年度と同様に「多様なニーズに応える単位制高校の在り方」をテーマにパネルディスカッションが行われました。コーディネーターを福井県立鯖江高等学校長が務める中、パネリストとして全日制から兵庫県立三田祥雲高等学校長、定通制から富山県立新川みどり野高等学校長と福井県立丸岡高等学校の3名から提言があり、その後、パネリストとの質疑応答や情報交換が活発に行われました。

3 研究協議Ⅱ（分科会）

昨年度と同様に「単位制高校における当面する諸課題とその対応」をテーマにパネルディスカッションが行われました。私は、定通分科会に参加しましたが、福井県立敦賀高等学校長がコーディネーターを務める中、チャレンジスクールとの位置づけである都立稔ヶ丘高等学校と広域通信制高校であるつくば開成高等学校京都校（私立）の副校長がパネリストとしてそれぞれが提言し、質疑応答を含めた熱心な協議が進められました。

全国高等学校給食研究協議会理事会・総会報告

北海道札幌北高等学校 教頭 村端 悟

平成24年8月6日（月）・7日（火）に全国給食研究協議会総会並びに第45回全国大会が東京都学校給食会館にて開催されました。北海道ブロックからは、北海道札幌北高等学校長の黒田信彦北海道高等学校給食研究協議会長が出席しました。

1 ブロック会議

平成24年度のブロック代表県の確認（北海道・札幌北高校）、ブロック推薦副会長の決定（秋田県・秋田明德館高校、宮城県・仙台工業高校）、ブロック推薦常任理事の決定（秋田県・秋田明德館高校）がなされました。

また、平成25年度のブロック代表予定県の確認（秋田県・秋田明德館高校）、「全国高校給食」原稿執筆担当県の確認（宮城県）及び平成26年度の「全国大会」研究発表担当県の確認（北海道・札幌琴似工業高校）が行われました。

2 総会

(1) 全国高等学校給食研究協議会の運営について

平成23年度に全国学校給食研究協議大会から離脱して、全国高等学校給食研究協議会に改称し高等学校のみの独自開催とし、研究大会を隔年で実施すること。理事会・総会は毎年8月に東京で実施すること。研究集録「全国高校給食」の発行は隔年とし、研究集録を発行しない年度には新聞を発行すること等を確認しました。

(2) 全国加盟都道府県について

47都道府県のうち、既に退会している県は15県あり、ブロックに割り当てられる都道府県数に差があるが再編成はしない。退会している県に対しても研究集録、新聞、アンケート調査など情報を発信しており意識付けに努めている。今年度加盟している高校数は全国で385校あり、最多は東京都で52校、次いで北海道が36校であるが一桁の学校数を有する県が多い等の報告が行われました。

3 全国大会

漫画家の魚戸おさむ氏が「漫画家が覗いた『食』の現場」と題して、現代人の食生活等について講演されました。

課程高等学校3校の（室蘭栄高等学校・苫小牧東校高等学校・苫小牧工業高等学校）生徒の現状（学習意欲・学力、生徒素行、家庭環境）や地域環境について比較検討した結果を報告すると共に、各校の現在抱えている課題と解決に向け、生徒理解を軸に不登

**第63回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長会
教育研究協議会愛知大会参加報告**

北海道苫小牧工業高等学校 教頭 松田 圭右

この度は標記研究協議会において、研究発表の機会を賜り、北海道定通部会校長会並びに教頭・副校長会の皆様に感謝申し上げます。

愛知大会は平成24年7月26日(木)・27日(金)の2日間日程で、文字どおり北は北海道から南は沖縄県まで、全国各地の教頭・副校長、来賓の方々を含め200名を超える皆様が参集し、「教育課程」「生徒指導」「管理運営」「教育制度・単位制」「通信教育」の5分科会において有意義な研究協議会が開催されました。北海道地区からは全国副理事長、北海道有朋高等学校副校長の田中光彦先生、全国常任理事、北海道札幌東校等学校教頭の馬場登先生と共に、第3分科会「管理運営」の研究発表者として参加いたしました。同分科会には北海道札幌東高等学校教頭の馬場登先生も議長として参加されました。

近年、定時制・通信制課程に通う生徒の実態は多様化傾向にあり、多くの学校において、従来のような勤労青少年の入学が減少し、不登校傾向の生徒や高校中途退学者、あるいは、自らの価値観やライフスタイルに合った学習時間帯を希望する生徒など、さまざまな入学動機を持った生徒が在籍している状況にあります。研究協議会では、このような多様な生徒の実態や学習ニーズに応え、魅力と活力あふれる定時制通信制教育の発展充実を目指し定時制通信制に関する諸課題について、各分科会ごとのテーマに基づき協議されました。

第一日目は、記念講演「教育に期待するもの～高校・大学野球審判の経験から～」と題して、弁護士(東京六大学野球審判員・高校野球審判員)の清水幹裕氏より、示唆に富むお話を伺うことができました。清水氏は1966年から2007年まで東京六大学野球の審判員を務めると同時に選抜高等学校野球大会においても数々の名勝負の審判を務めてこられた方で、長きに渡り審判員を務めた経験から、審判員の視点から見た指導者の指導法や姿勢、多くの名選手の学びや取組への姿勢について、興味深く、また教育においても大変勉強になる内容の講演をいただきました。全国単位制高等学校長等連絡協議会が、平成24年10月11日(木)から2日間の日程で福井県福井市の「ユアーズホテルフクイ」を会場に開催されました。

次に、第1日目午後の後半から第2日目午前にかけて、各分会での発表がありました。私が発表した校、非行防止、進路指導におけるの特色ある取り組みについて、述べさせていただきました。

また、2つ目の研究発表は「分校の管理運営の現状と今後の課題」と題して、岩手県立久慈高等学校長内校教頭の遠藤拓見作先生よりご発表がありました。昼間部・夜間部を持ち、多様な生徒を抱える中、大震災の影響もあり職員の適性配置も遅れる状況で、職員のアンバランスと資質向上の必要性、近年の教職員の信用失墜行為からの服務規律の徹底、まさに真っ直中である大地震・津波対応まで幅広く、また、きめ細やかな対応についての発表がなされました。中でも大震災後の教育全体への影響と校内でのご苦労については、切実に感じ取ることが出来ました。

今年度、本校が全国高等学校定時制通信制教頭・副校長会教育研究協議会愛知大会での研究発表を行うに当たり、胆振支部の定時制課程の3校では、昨年度より各校の現状の分析、情報交換、研究協議を重ねて参りました。研究協議において各校共通の課題、「高校中途退学者数の抑制」のためには、生徒理解のための教育相談が重要であることが共通認識でき、しっかりとした教員と生徒の信頼関係の上に建った特色のある取組が為されていることを確認できました。同様の課題を持つ3校の、連携を通し得られた貴重な実践を、本校の教育実践に活かすとともに、今後とも一層の3校での協力・連携を深めて参りたいと思います。

本研究発表に、ご支援ご協力頂きました、北海道室蘭栄高等学校教頭伊藤博史先生、苫小牧東校等学校教頭鈴木龍昭先生にこの場をお借りしまして厚く御礼申しあげますと共に、北海道定通部会校長会並びに教頭・副校長会の皆様には、貴重な機会を頂きましたことを、重ねてお礼申しあげ、報告とさせていただきます。ありがとうございました。

**第63回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会
・研究協議会(高知大会)報告**

北海道札幌北高等学校 教頭 村端 悟

平成24年8月2日(木)～3日(金)の2日間にわたり高知市の三翠園を会場として「第63回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会・研究協議会」が開催されました。

今年度は、『志の国高知』から未来への希望と個性を育む定通教育を発信する」を大会テーマとし、「若者の未来を切り拓く定通教育の振興について」を研究協議テーマとして研究協議が行われました。

【大会1日目】8月2日（木）

午前中の理事会・評議員会、各県代表者会議では、平成23年度会務事業報告・決算報告、24年度事業計画・予算案等が承認されました。

また、『公益財団法人の認可』については、本年4月1日に認可され「公益法人全国高等学校定時制通信制教育振興会」と名称が変更されたこととあわせて『公益財団法人の役員（案）』についての説明があり承認されました。

午後からの開会式では島村宜伸会長から主催者挨拶、続いて尾崎正直高知県知事、中澤卓史高知県教育委員会教育長から歓迎の挨拶がありました。開会式に引き続いての総会では、和田敬友会長が前年度開催地（北海道）会長として議長選出され、議事進行をされました。

総会後の講演会では、高知大学総合研究センター特任教授、高知大学南海地震防災研究支援センター長兼任の岡村眞氏による「巨大地震（南海地震）に備える」～東日本大震災を教訓に～と題した講演が行われました。その後、「定通教育の現状と課題」、「定通教育振興会の在り方」についての提案を受け研究協議Ⅰ・Ⅱが行われました。

【大会2日目】

前日に引き続き、「学悠館高等学校の第2ステージに向けて」、「定通教育における特別支援教育について」の2つの提案を受けて研究協議Ⅲ・Ⅳが行われ、文科省の永井克昇視学官から指導助言をいただきました。文科省、厚労省に関する質問要望事項への回答の後、大会宣言決議文の朗読・採択が行われ、2日間の大会日程を無事終了しました。

第60回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会参加報告

北海道札幌琴似工業高等学校 教頭 盛田 典男

平成24年11月24日（土）、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、第60回記念全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会が開

催されました。北海道からは本校電子機械課4年の町田亜実さんと留寿都高等学校3年、白川亜沙里さんの2名が出演し、町田さんは最優秀賞の文部科学大臣賞、白川さんは文部科学省初等中等教育局長賞を受賞し、これで本校と留寿都高校は3年連続全国入賞を果たしたことになります。

この大会は、全国の定時制・通信制高等学校に学ぶ生徒が、学校生活を通して、感じ、学んだ貴重な体験を発表し、多くの人々に感動と励ましを与えることを目的とするもので、歴史が深く今年度は60回という記念すべき大会でした。

全国から集まった58名の生徒が5会場に分かれて発表し、各会場より3名を選出。午後から大ホールに移動し、全体発表が始まります。町田さんは1年以上かけて映画「ハッピーみらくるコミュニケーション」を制作してきた体験を「日々、変わる」と題して発表。本校の全日制を中退して人間関係を上手に築けない自分だったが、映画制作に参加。脚本、演出を担当し苦労はしたが多くのことを学び、みんなと作り上げた達成感、連帯感が自分を成長させた。またコミュニケーション力もつき、これからの人生たくさんの人と関わって無駄だと思うこともやっていく、そうすると人は日々変わっていき、人生はこんなにも楽しくなると結んだ。

白川さんは「受け入れる笑顔」という演題で、小学校時代に、心の病を発症し小中学校時代は学校に満足に通うことが出来なかった。しかし、留寿都高校での生活の中で、仲間や先生、家族に支えられ、病を克服しました。この体験を通じ、将来自分も福祉の道で、誰かの支えになる存在になりたいと述べました。

上位発表者はNHK第2ラジオ放送で全文紹介されました。



★地区だより

道南地区定時制教育の活動状況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

道南地区長

北海道函館中部高等学校 教頭 谷川 敬一

道南地区の概況

道南地区定時制は函館市内に3校あり、いずれも創設から100年前後という伝統校である。学科は普通科、商業科、工業科とバランス良く配置されており、公教育として道南の発展に貢献してきた。

近年は3校が合同で、生徒に係わる行事や教員の研修会を実施しており、3校の協力・連携体制が円滑に機能している。具体的には、定体連、生活体験という全道・全国につながる大会を始め、「性教育講演会」「薬物防止教室」などを毎年開催している。事務局は3校で持ち回りをし、作業量・経済性の両面で効率的に分担をしている。また、教員のための研修は「カウンセリング」や「コーチング」など、各校が共通して抱えている諸問題を解決するために、講演や研究協議を実施している。



(1) 北海道函館中部高等学校

大正12年に中等夜学校の1つとして、北海道庁立函館中学校に併置を認可され、同年、私立函館中等夜学校として開校した伝統校である。現在、普通科2間口、在校生は158名。卒業生は平成23年度まで4621名となり、全国各地で活躍している。中部高校の象徴、白楊（ポプラ）に集い、燈の中で学ぶ定時制の心意気を「楊燈魂（ようとう だまし）」と呼ぶようになり、その「楊燈魂」の名の下に教師と生徒が一丸となって、生き生きと学ぶ魅力ある学校づくりを目指している。平成25年に創立90周年を迎え、記念式典や祝賀会に向けて卒業生が意欲的に活動している。

現在、「卒業できれば満足」という意識を一步前に進め、「希望する進路（就職・進学）を実現する力をつける」ために工夫した取組を行っている。具体的には、コミュニケーション能力を育てることを目的に、高校生ステップアップ・プログラムを活用し、グループや個人でのカウンセリング活動を体験し対人関係力（コミュニケーション能力）を養っている。また、基礎学力をしっかりとつけることを目的に、国語、数学、英語を中心にティームティーチングを行いきめの細かい指導を実施。さらに、ワープロ検定など各種検定に挑戦することを通し、学習意欲をかき立て、自信につながるように、授業内容を工夫し積極的な学習を支援する体制を強化している。

(2) 北海道函館工業高等学校

本校は明治44年に設置され、一昨年創立100周年を迎えた、道内の工業高校としては最も古い歴史と伝統を持つ学校である。設置学科は機械、電気、建築、の3つの基幹学科を有し、道南唯一の定時制工業高校として、地域から期待されている。これまでに1万余名の卒業生が巣立ち、地元函館を中心に全道・全国各地の産業界で活躍をしている。

生徒たちは上級学年にあがるにつれて落ち着きを増し、明るく元気に学習に取り組んでいる。放課後には多くの生徒たちが資格取得の補習に参加し、特に危険物取扱者や電気工事士では多くの生徒が合格している。部活動ではどの部も少ない人数ながら一生懸命練習に励むなど、自分の目標をしっかりと定めて活気のある学校生活をおくっている。

保護者も、定体連前の炊き出しによる激励会や、学校祭での模擬店の実施など、積極的に学校に関わりを持ってきている。

教職員は「わかる授業」を心掛け、授業形態や指導内容・指導方法の工夫・改善に取り組んでいる。また、生徒の登・下校時には多くの教員が玄関で生徒一人ひとりに声掛けをおこなうなど、常に生徒たちの話に耳を傾け、生徒との心のつながりを大切にしている。

(3) 北海道函館商業高等学校

本校定時制は明治36年（1903年）4月15日、庁立函館商業学校第5代校長神山和雄、個人にて同校舎の一部を北海道庁より借受け私立函館商業補習学校を開設し、夜間補習教育を行ったことが起源である。校名は函館商工実修学校－函館市立商工青年学校－函館市立商業学校－函館商業高等学校定時制

課程」と変え、校舎は函館市の西部地区（函館山方面）から、五稜郭町（現在の函館美術館のあたりに）、昭和町へと、校舎校地が移転している。亀田高校を統合して、現在の地に昭和45年に移転する。平成10年には建て替えを行ない、平成13年に完成する。

本校定時制は平成25年に、創立110年目にあたる。この9月に記念事業を、その記念事業の一つに、芝桜ロードの計画がある。シルクロードに倣い先人の想いをこの校舎に運び、友が行き来するように願



（芝桜の植栽）

いをこめている。2年前から生徒等の手によって芝桜の植栽が進められてきた。記念の年に校舎の周りに芝桜が一面咲き誇り、校舎の営み・記念の年に花を添えることができるようにする。

★地区だより

胆振地区定時制教育の活動状況

北海道高等学校教頭・副校長会定痛部会

胆振地区長

北海道室蘭栄高等学校 教頭 伊藤 博史

胆振地区の概況

胆振地区は、室蘭と苫小牧の二つの港湾都市からなる。室蘭市は、製鉄・製鋼や造船など重工業都市として発展してきたが、鉄鋼や造船不況等により、人口が減少化傾向にある。苫小牧市は、特定重要港湾「苫小牧港」と北海道の玄関「新千歳空港」があり、活気にあふれる都市であり、人口が増加している地域である。

かつて胆振地区には定時制高校が7校ほどあったが、現在は西地区1校（室蘭栄）、東地区2校（苫小牧東・苫小牧工業）の3校のみとなってしまった。

次に各学校の教育活動を報告する。

（1）室蘭栄高等学校

普通科、一問口の夜間定時制である。昭和23年10月に開設されて以来2,200名余りの卒業生が巣立っており、平成20年度に60年の節目を終え、現在に至っている。学校教育目標は「〈真理の探究〉・〈徳性の向上〉・〈健康の増進〉」の3本柱である。

本校は、おとなしく繊細な心を持つ生徒や心身にハンデキャップを持つ生徒に対して、社会的自立を

支援する指導が重要であると考え、次のような取り組みを行っている。

- ① 基礎・基本の徹底
- ② 集団行動と人間関係の構築
- ③ 共感的な生徒指導
- ④ 自己の適性を見つめた進路意識の向上
- ⑤ 外部講師等による各種講座と研修の取組、及び振興会・同窓会による支援等

（2）苫小牧東高等学校

昭和23年に設置され、平成24年3月で、2,036名の卒業生を社会に輩出している。学校教育目標は「恵・礼・勤労」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間を育成するとともに、国家・社会の有為な形成者としての必要な資質を養うため、「〈学力の向上〉・〈高い品格の創造〉・〈心身の鍛錬〉」の三点に重点を置いている。

広範多様に及ぶ生徒情報を可能な限りつぶさに把握し、少しでも社会性を身に付けるために次の取組に重点を置いている。

- | | |
|---------------------|------------|
| ア 早期の個人情報の収集 | イ 生徒情報の共有化 |
| ウ 教育相談週間の実施 | エ 生徒会活動の充実 |
| オ 教育相談の充実 | カ 生徒の健康維持 |
| キ 授業改善 | ク 進路指導の充実 |
| ケ 本校生の実情に即した教育課程の管理 | |
| コ 基本的な生活習慣の確立 | |
| サ 健康安全について | |

（3）苫小牧工業高等学校

大正12年に北海道の工業開発に携わる工業技術者の育成を目指し開校され、今年度で創立88年を迎える。卒業生は、2万4千名を超え、全国各地で活躍している。定時制課程は、昭和28年に機械科が、30年には建築科、40年には電気科も設置された。昭和60年、定時制課程の出願者の減少により電気科が閉科。現在は、機械科と建築科の1問口2学科となった。「働きながら学ぶ」夜間定時制高校として、地域に根ざした教育活動を推進している。学校教育目標は、創造性豊かな工業人をめざして、〈豊かな心と健康な身体の育成。自ら学ぶ力と公正な判断力の育成。働く意欲と旺盛な責任感の育成。〉である。目標の具現化のために次の取り組みを行っている。

- ・教育相談を軸とした生徒指導体制
 - 1) 全教職員による授業不参加者への教育相談
 - 2) 担任による教育相談月間
 - 3) 喫煙防止指導
 - 4) 家庭訪問月間
 - 5) 登校指導による停学指導
 - 6) 登下校指導、交通安全指導

・登校指導による停学指導

本校では現在、退学者の大半が1年生で発生しているが、生徒の退学したい理由を把握した上での説得により踏み止まる生徒もいる。また、退学する生徒にも退学後の進路相談にのるなど、退学後も相談に来校する生徒も多い。

調査研究部報告

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

調査研究部長

北海道札幌南高等学校 教頭 北村 京一

昨年12月に政権が替わり、教育界にも少しずつその影響が現れつつある。定時制を取り巻く環境はますます複雑化し、学校に対する保護者からの要請も多様化している。また、生徒個々の能力や興味、関心に応じたきめ細かな指導や特色ある教育活動が強く求められている。このような状況において、教職員の業務量は徐々に増大し、教職員の健康管理についても対策が叫ばれるようになった。

「働きながら学ぶ生徒」は少なくなったが、中学校時代に不登校等を経験した生徒が、「高校卒業の資格を得たい」という目標を持って入学し、定時制の小さな集団の中で学ぶ意義や生きがいを見いだすケースが多くなってきた。しかし、健康面・経済面に問題があり、ややもすれば志半ばで学校を去っていく生徒が多い中、「高校卒業」という目標を持ち続ける限り、定時制の教員はそれが達成できるよう、常に生徒の実態に即した支援策を探求し、実践している。

このような情勢を踏まえ、今年度は「定時制課程における業務分担の適正化及び履修の要件等について」というテーマで調査を実施した。

定時制の少ない教職員の中での効率的な分掌配置と教職員の業務内容の適正化、定時制特有の実態や課題を抱える中での各校における履修の認定のあり方についての実態を明らかにするため、調査・研究活動を行った。

全道の状況を見ても、業務内容の適正化については、少人数ゆえの難しさが数多く見られた、例えば業務を効率的に進めるために、ひとり二役から三役をこなさなければいけない現状や個々の力量が異なるため、平準化すると業務が滞る等の問題点が浮き彫りになった。

また履修の認定に関しては多くの学校が、生徒指導上からも欠席時数について厳しい指導を年間とおして行っており、そのことが落ち着いた学習環境を

つくり、中途退学を防止してきたという側面がある。

しかし、心の病気等の関係で、授業に出席出来ない生徒への対応等から柔軟な対応や内規の見直しをはかる必要性を強く感じた。

今回の調査・研究によりあらためてあきらかになった定時制・通信制高校の各校の現状や課題を共有し、相互の連携をさらに深めていくことが重要であると考えます。

最後に、校務多忙な中、調査にご協力、ご助言いただいた各校の副校長・教頭先生に深く感謝を申し上げます。

北海道定時制・通信制体育連盟報告

札幌市立大通高等学校 教頭 佐藤 昌弘

平成24年度の事業につきましては、関係各位のご理解とご協力により、すべて滞りなく終えることができました。各支部、各種目専門部におかれましては、春の支部大会に始まり北海道大会、秋季新人戦まで円滑に運営していただき、改めて心より感謝申し上げます。

今年度の北海道大会及び全国大会の成績につきましては、事務局（市立札幌大通高等学校）のWebサイトをご参照ください。（<http://www.odori-h.sapporo-c.ed.jp/teitairon/>）に掲載しております。

昨年の会計検査院の指摘などを踏まえ、道教委は「部活動にかかる大会等の業務に従事する場合の職務上の取り扱い」を定めました。その通知を受けて、生徒が参加する大会等に関わる業務のうち、生徒引率や組合せ抽選会など、自校生徒の大会参加に関わる業務は校務として、また、準備委員会、審判業務など、運営に関わる業務は、職専免として処理することになりました。このことで、選手のいない専門委員や、審判も職専免の扱いとなり、大会に伴う災害補償の関係も考慮されます。

ところで、昨年末より、運動部による「体罰」の問題が大きく報道され、学校教育の部活動のあり方について、様々な意見が出されております。若い命を自ら絶つまで追い詰められた生徒の気持ちを考えると、やりきれなさと胸がいっぱいになります。

先日、2つの講演会に参加する機会がありました。北海道から全国的に有名なトップアスリート（福島千里選手）を育てた北海道ハイテク専門学校の中村宏之監督は、常に工夫と研究が必要で「選手のモチベーションを持続させるのは遊びの要素である。」と、

また、NBAの解説で有名な早稲田大学の倉石平教授は、現在の少年スポーツ育成に大切なのは「コーディネーション・トレーニング（頭で考え、体で表現すること）」であると話されていました。共通するのは、「選手（生徒）の心であり、考えを大切にすること」ではないかと感じました。我々は、教育者として、威圧や強制でない指導テクニックを一人ひとりが自分の指導力に奢ることなく、謙虚に研鑽し、模索していかなければなりません。

第56回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会報告

北海道札幌南高等学校教頭 北村 京一

第56回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会は札幌市教育文化会館において、平成24年10月17日（水）に開催されました。今年度も、昨年同様、北海道・北海道教育委員会等11団体から講演・助成等のご支援をいただき全道から11名の代表生徒を迎えて大会を開催することができました。大会運営の当番校として関係の皆様にご心よりお礼申し上げます。

今年度も、昨年同様全道9地区の定時制及び通信制から計11名の代表が集い熱戦を繰り広げました。その中で、貴重な体験を通じた人間的財産や様々な困難を乗り越えて一生懸命に生きようとする強い意志を力強く発表してくれました。自分を支えてくれた先輩や先生方、共に支え合った仲間の存在の大切さに気づいたこと、自ら選んだ環境の中で自己を最大限にまで高めようとする積極性に満ちあふれた内容ばかりでした。どの発表もレベルが高く、審査員の先生方も大変悩みながら採点されていたことが印象的でした。今年もご出席いただいた中村北海道教育委員会委員様をはじめ、多数のご来賓の皆様方からも、定時制・通信制で学ぶ生徒達の真摯な姿勢にお褒めの言葉をいただきました。最優秀賞の町田さんと優秀賞の白川さんが全国大会に出場しました。全国から選ばれた58名が競い合った中で、特に町田さんは上位2名にしか与えられない「文部科学大臣賞」を受賞したことからも、今年の大会がいかに素晴らしいものであったかご想像いただけると思います。

本校全日制ダンス部の生徒の皆さんには授業終了後、急いで駆けつけてもらいアトラクションとして全国レベルのすばらしいパフォーマンスを見せてもらいました。本大会に参加した生徒たちにとって

親しみやすく素敵なプレゼントになったものと思っています。なお、発表内容については、大会集録「輝く青春

（第46集）」に全て掲載されております。是非ご一読いただくことを願っております。本大会が今後とも益々発展し、定通教育の充実に寄与することを祈念して報告いたします。



審査結果

- 最優秀賞 札幌琴似工業高等学校4年 町田 亜実
「日々、変わる」
- 優秀賞 留寿都高等学校3年 白川亜沙里
「受け入れる笑顔」
- 優秀賞 札幌北高等学校3年 佐藤 真也
「僕は定時制高校の生徒です」
- 奨励賞 函館中部高等学校4年 数馬田 遥
「この二人がいなかったら、私はここに立ってない」
- 奨励賞 旭川商業高等学校3年 山田なつみ
「輝く道」
- 奨励賞 帯広柏葉高等学校1年 西田 彩
「努力する人」

第44回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会
報告

北海道札幌北高等学校 教頭 村端 悟

平成24年10月5日（金）に第44回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会が、北海道札幌北高等学校を会場として開催されました。「意欲的な生活態度を育む学校給食の在り方」を研究主題として、22校50名の参加を得て講演・研究協議を実施しました。

北海道大会に先立って行われた理事総会・研究協議会では、平成24年度会務中間報告・会計中間報告、役員構成について審議了承されました。また、「大会集録の見直し」（簡素化の方向）及び「大会日程の検討」（参加者の多様化を目指して）についても了承されました。

開会式では、北海道札幌北高等学校長の黒田信彦北海道高等学校給食研究協議会長からの主催者挨拶の後、北海道給食会の巻瀧雄二理事長から来賓挨拶がありました。

その後、シダックス(株)総合研究所管理栄養士の清水理絵氏より、『「スポーツセミナー ベストを尽くすために・・・「食べて強くなる！」』と題して講演がありました。基礎編として「基本的な食事について」・「食事の評価（自己管理）」、応用編として「試合時の食事について」・「風邪予防」について、予定された時間をオーバーするほどの熱のこもった講演に、参加者一同熱心に耳を傾けていました。

午後は、黒田信彦北海道高等学校給食研究協議会長の全国大会報告から再開しました。漫画家の魚戸おさむ氏が「漫画家が覗いた『食』の現場」と題して講演された内容を詳しく紹介・報告されました。

その後、北海道遠軽高等学校の宮下裕加教頭の研究発表が行われました。「学校給食充実のための方策」～全てはキャリア教育に通じる～と題して、遠軽高校の現状と課題についての報告と分析がされました。研究発表を受け研究協議が行われ、北海道旭川商業高等学校の河田章宏教頭の司会で進められ、参加各校から現状と課題についての報告が行われました。研究協議の終わりに当たり、北海道教育庁学校教育局健康・体育課学校給食グループ山際昌枝指導主事から指導助言をいただき、大会日程を終了しました。

退職にあたって一言

北海道札幌工業高等学校 教頭 木藤 宏伸

いつのまにか退職する時期となりました。今思うと、時間の過ぎる速さを感じます。教頭としてまだまだやりたい事はあったのですが、なかなか思うようにはいきませんでした。

また近年、いろいろな教育課題が増え、校務運営の時間調整がなかなか大変でした。学校課題がまだ解決していない中で、退職するのは残念ではありますが、ご容赦願います。政権が代わり、新たな教育課題が学校に押し寄せて来ますが私たち教育に携わる者は生徒の可能性を引き出すアシスタントとして接しなければならぬと思っています。お世話になりました。

退職挨拶

北海道江別高等学校 教頭 市岡 幸治

退職にあたって

北海道苫小牧東高等学校 教頭 鈴木 龍昭

定通教頭会には2年間お世話になりました。「勤労青少年の教育」から「様々な入学動機や学習歴を持つ生徒の多様なニーズに対応」している今日の定通教育で様々な貴重な経験をさせてもらいました。ネグレクトや子どものアルバイト料を遊興に当てる親等々。「負の連鎖」を断ち切ることの難しさを痛感しました。各定通高校で頑張っておられる教頭先生や諸先生方に敬意を表したいと思います。

会員の皆様のご健康と今後益々のご活躍を祈念し、挨拶いたします。ありがとうございました。

教育の原点

北海道滝川高等学校 教頭 千葉 茂男

「教育の原点は定時制教育にある」

三十年程前に四年間定時制の教員をしていたときのS教頭の口癖であった。私はその後、進学指導に力を入れる学校や様々な高校を経験し、定時制課程に戻って退職を迎える。S教頭は定時制教育一筋で最後まで信念を全うした。その足下にも及ばないが、今本校は、先生方の日々の努力のもと、様々な生徒の心をしっかりと支え、前向きに歩き出すための教育を実践している。最後に、あらためて、「ここには教育の原点がある」と言えることに感謝する。

定時制生活を振り返って

北海道岩見沢東高等学校 教頭 吉岡 成尚

私は平成13年から3年間恵庭南高校で勤務させていただき、教職生活最後の2年間を岩見沢東高校で、合わせて5年間定時制の生徒と共に生活しました。家庭環境に恵まれない、経済的に恵まれない、中学校に色々な理由から通えない、このような生徒たちですが、高校入学時と比べ卒業を迎える時期になると人間的にも大きく成長し、定時制教育が果たす役割の重要性を改めて実感しています。「学び直し」が必要な生徒のために、定時制教育の更なる発展をご祈念申しあげ、挨拶とさせていただきます。

平成25年度定通部会 事業計画（案）

●北海道の事業計画

No.	事業計画	期 日	会 場
1	◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会 総会・研究協議会	平成25年5月15日(水)	帯 広 市
2	◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会	5月15日(水)	帯 広 市
3	◆北海道高等学校教頭・副校長総会・第1回研究協議会	5月15日(水) ～16日(木)	帯 広 市
4	◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会 総会・研究協議会	6月11日(火)	札 幌 市
5	◆第45回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会	※未定(検討中)	札 幌 市
6	◆第57回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会	10月16日(水)	札 幌 市
7	◆平成25年度調査研究報告書発行 ◆「会報」発行	平成26年3月上旬	

●全国の事業計画

No.	事業計画	期 日	会 場
1	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会校長・教頭・副校長研究協議会	平成25年5月7日(火) ～8日(水)	札 幌 市
2	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第1回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	6月14日(金)	東 京 都
3	◆第65回全国高等学校通信制教育研究協議会（全通研大会）	6月13日(木) ～14日(金)	郡 山 市
4	◆第64回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会総会・教育研究協議会（全教協大会）	7月25日(木) ～26日(金)	千 葉 市
5	◆全国高等学校給食研究協議会理事会・総会	8月 5日(月)	東 京 都
6	◆第64回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会（全振大会）	8月 8日(木) ～ 9日(金)	広 島 市
7	◆第24回全国単位制高等学校長等連絡研究協議会	10月10日(木) ～11日(金)	大 分 市
8	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会（地区通研大会）	※全通研大会が東北開催のため、開催しない。	
9	◆第61回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会	11月24日(日)	東 京 都
10	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会教頭・副校長研究協議会	12月 5日(木) ～6日(金)	仙 台 市
11	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第2回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	12月 6日(金)	東 京 都

《 編 集 後 記 》

定通部会における業務についてご理解・ご協力いただきありがとうございます。おかげをもちまして、本年度の「会報」も無事発行の運びとなりました。

編集発行にあたり、ご校務ご多用の中ご執筆いただきました校長協会定通部会長の村田校長先生をはじめ、全道の副校長・教頭先生、そしてWEB更新にあたり、北海道有朋高校の諸先生方にあらためて感謝申し上げます。編集終了のあいさつとさせていただきます。
[恵庭南高等学校 田邊 禎明]

